

・止血ベルトは、清潔に（洗濯）する。

止血時に出血し、止血ベルトに血液汚染した（血液がついて汚れた）場合、必ず洗濯をしてください。

そうでなくても、毎週週末には洗濯して、日光に当てるようにしましょう。

汚れたままにしておくことは、感染の原因となってしまうことがあるからで

す。普段着ている洋服と同じ感覚で止血ベルトも衣服の一部と考えましょう。回路の固定をガーゼで行なっている方は、ガーゼも一緒に洗濯をしましょう。



3. シャント部の観察

・見る・触る・聞く

五感を使って観察をしましょう。

シャントの皮膚が、「赤い」「はれている」「熱を持っている」「血管が硬い」「痛い」「音がしない・いつもと音が違う」ということがありましたら、スタッフに声をかけてください。



4. 同じ場所への針刺しは、避ける。

・痛み止めテープは、透析毎に少しずつテープを貼る場所をずらす。

同じ場所ばかりに針を刺していると、皮膚や血管が弱くなり、伊藤先生のお話にあった「瘤」が出来やすくなります。また、止血しにくくなります。

皮膚や血管壁が硬くなると、針を刺す時の痛みが強くなるようになります。

5. 自宅で出血したら

・透析室で貼った絆創膏は、翌日にははずす。

そのときに「かさぶた」がとれてしまい出血してしまった。そのような時は、あわてずに清潔なガーゼかティッシュを使い、指で針穴を約 10 分押さえましょう。止血が出来たら、傷用の消毒薬で消毒をして、新しい絆創膏を張りましょう。なかなか出血が止まらない・出血の勢いが強い時は、透析室までお電話でご相談ください。